

# 土佐の南国ルネサンス構想

5

最近、ログハウスがはやっています。西山の広城農道沿いにも2軒のログハウス工房があります。写真はその内の1軒。ギャラリー兼モデルハウスで、廃材を利用して建てたとか。内には丸太を使った小物、木のぬくもりのする腰掛けや長い机が飾ってあります。

3人の共同経営で創業したこの工房、丸太の自然な光沢や、素材な味わいが好評で、立ち寄る人も多く、なかなか好評だとか。このようなハンドカット工場(工房)は四国に4か所あり、その内2か所が西山部落にあります。

ログハウス建設にあたる人はログビルダーと呼ばれ、大工さんの仕事に近く、かなり専門的な知識が必要になります。鹿児島県から来て修業している男性によると、一番近い工房を探してやってきましたとのこと。西山は西日本一のログハウス工房のメッカなのかも……。



市総合計画のつくり方や南国市をとりまく、現状と課題について、四回にわたって連載してきました。今回は、基本構想の考え方や南国市の、目指す将来像について、一結に考えてみたいと思います。

## 審議会長に

喜多村医科大学長

▼「手づくりの総合計画をつくるため、市民による市振興計画審議会を議論されていくようですが……」

各界名士の市民代表で審議会を組織し、会長に喜多村勇高知医科大学長を選びました。今回の総合計画づくりは事務局(市企画課)が案をつくり、審議会が字句や表現をチェックするという方法はとっていません。

作成の段階から自由に市民の意見や構想を取り入れるように、若者によるワーキングチーム、ふれあいトーク、アイデアポストなど幅広く意見を聞いてきました。それをもとに基本構想の素案をタタキ台に審議会で審議してもらっています。

▼まず、基本構想で南国市の未来像・将来像を決めようというわけですね。そうなんです。二十一世紀の南国市のあるべき将来像を決めて、そのあと事務局が基本計画(施策の基本的な方向と主要なプロジェクト)の素案をつくって審議してもらおう手法をとっています。

▼大枠での「南国市の将来像」が決まったそうなんです。基本計画を具体的に議論するなかで、基本構想の修正があると思いますが、大枠のグランドデザインはできました。その基本的な考え方は、土佐のまほろば南国をルネサンスする構想です。ルネサンスとは「再生」の意味です。十三世紀末、ギリシャ、ローマ古典文化の復興を契機として広く学問、政治、宗教の方面にも清新な気運をひき起こして、人間中心の近代文化への転換の端緒をなした運動で、文芸復興、再生、復活を意味します。



▼それを南国市にあてはめて「まほろばの里を再生」しているということですか。南国市は「土佐のまほろば(すぐれた良いところ)」といわれ、古代から中世にかけての約一千年、政治・経済・文化の中心でした。それが今また、広域高速交

## 資源を大切に捨てる神・拾う神



「中村市は家庭で不用になった耐久消費財などの再利用を図る『不用品情報登録制度』を発足させた」という新聞記事がありました。実は、私が住んでいた東京都世田谷区の「リサイクル推進課」にも同制度があり、愛用していた品々を生かすことができました。使ってくださっている方から、いまだに年賀状をいただくこともあり、縁結びの区役所に感謝しています。

捨てる神あれば、拾う神あり、と申します。南国市も検討してみたいかでしょうか。 上田啓子(大埔)

アイデアポストより

## いま部落は、そして……。

### 教育シリーズ

前号まで、南国市が過去二回実施した「同和問題に関する市民意識調査」の特長的な点について述べてきました。南国市では、またまた多くの市民が同和問題に対して正しい理解や認識をもっていないことが明らかになっています。

## 市民・県民の意識は？

⑦

今回は、同和教育について市民はどう考えているかをみてみましょう。

国、県や南国市では、小・中・高の各学校や社会教育で同和教育を取り組んでいます。これについて考えをお聞かせください。(数字は% かつ内は男女別)



でも市民の中で、五人に一人の割合で、同和教育を否定する人が存在する事実について、もう少し深く掘りさげて考え

てみる必要があります。これは、意識調査の他の設問で「同和問題がまた解決されていないのは、

なぜだと思いませんか」の間に、「直接自分には関係ない」「二七・六割」「いまさら同和問題を取りあげなくてもよい」「二九・四割、両者合わせると五七割の人が、「自分とは関係ない」「取りあげなくてもよい」と回答していること、深く関わっていると思われま

通時代を迎えて、陸・海・空の要(かなり)に位置することになり、再び発展の可能性を大きく秘めてきました。そこで、すこぶる健康な自然環境や歴史、伝統などの良いところを継承しながら、磨きをかけて二十一世紀にむけて市民と共に「土佐のまほろば・南国市」をルネサンスしたいというわけなんです。

▼発想は大胆に、計画は周到に。新鮮な発想と時代を先取りする試みに勇気をもって取り組んでほしい。土佐のまほろば・南国市を全国にアピールするキャッチフレーズを「こゝは南国・こゝめん後免」としています。ほかにも「人もまちも、すこぶる元気な健康文化都市・南国市」とか、「土佐のまほろば・あつたか南国市」など、いろいろな意見がありますが、市民の方からも「アイデア・ポスト」

で提言してほしいと思います。ルネサンス構想を「パイプ」的な存在にして、市民と行政が一体になって「元気・やる気・そして本気のまちづくり」を進めていこうというわけですね。そのキーワードは「人もまちもキラリ輝くルネサンス」をブランド・デザインしながら「新たなまほろば」を創造していこうとしています。今回は、ルネサンス構想の目指すところを紹介いたします。